

## 一シャクヤク



学名 : *Paeonia lactiflora* Pallas

科名 : ボタン科

属名 : ボタン属

形態 : 東アジア原産の多年草、中国東北部、シベリア、朝鮮北部に分布、根は紡錘状に肥厚、葉は互生し、2回3出複葉、初夏に枝先に紅～白色の大きな花をつける

成分 : 変形モノテルペン配糖体 (paoniflorin)、ガロタンニンなど

使用部位 : 根

中薬では赤芍と白芍で使い分ける

赤芍…外皮をつけたまま乾燥させたもの : 血を活性化(活血)し、瘀血をとる。熱を取り、血を冷やす。(清熱作用)

白芍…外皮を取り除いて乾燥させたもの : 滋養を与える(補血)、痛みを取る(止痛・鎮静)

用途 : 漢方で鎮痙、鎮痛、緩和、収斂を目標に用いる

製剤 : ㊟シャクヤク末

㊟葛根湯、小青竜湯、芍薬甘草湯、当帰芍薬散、柴胡桂枝湯、大柴胡湯、加味逍遙散、四逆散など

特徴 : 「立てばシャクヤク、座ればボタン」といわれるように、ボタンと並んで高貴な美しさを漂わせ、豪華な花を咲かせる。同属のボタンは木本で冬も枝が残るのに対し、シャクヤクは草本で冬は地上部が枯れ、地中で根や芽の状態です。日本へは平安時代以前に薬草として伝えられたが、その後は観賞用として多数の園芸品種がつくられてきた。これらは「和シャクヤク」と呼ばれ、一重咲きや翁咲きなど、比較的シンプルなものが多い。ヨーロッパで育成された品種は「洋シャクヤク」と呼ばれ、手まり咲きやバラ咲きなど、花びらの数が多く香りの強いものが多いのが特徴である。

【参考文献】・生薬学第8版(廣川書店)

・最新薬用植物学(廣川書店)

・みんなの趣味の園芸(NHK出版)

[https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page\\_p\\_detail/target\\_plant\\_code-84](https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page_p_detail/target_plant_code-84)

・漢方ノート(株式会社漢方みず堂) <http://www.kamponote.com/2056.html>